

： 正常性バイアスを乗り越えるために、
ほんの僅かでも、状況改善に繋がることを目指し、「だから学ぶ」

地域包括支援センター 社会福祉士・精神保健福祉士 長谷川尚見

相原先生

地地域で共有される『悪しき文化』について、日頃の活動を通して感じていました。

改めて、様々な機能不全を振り返り、考える機会をいただきました。心より感謝申し上げます。

社会福祉士として出逢う様々なケースで、たとえば、『処遇困難』とよばれる方について、対応する職員の能力との相互作用によって、その後の生活が、少なからず違いを生み出していることを、日頃より実感しています。

これをより深め、「だから学ぶ…」という自分自身の眩きに向き合う機会をいただくことができました。

学生時代の一時期には、「自分が学び続けて出来る事は、ほんの僅かな状況改善にさえ繋がるものだろうか…」と、ふと考えたこともございました。けれど、幼い頃より自分を可愛がってくれました祖母の言葉もございまして、自分の思うところに正直に「運良くほんの僅かかもしれないが、状況改善に繋がることを目指す」ということを、多少困難な状況におかれた場合でも、周囲の協力を得ながら、自分の中で持ち続けて過ごすことに繋いでいくことができました。

中学生時代に教わりましたかつての国語の恩師と出逢う機会がございましたので、暫くして自分が結婚したことを伝えましたら、お祝いのメッセージが書かれたお葉書をいただきました。そのメッセージの中にもございましたお言葉の一つに「淡々と過ごす」という言葉がございました。ある側面からはシンプルにも感じられる言葉でしたが、素晴らしい文字で書かれていましたメッセージを何度も繰り返し読みながら、そのお言葉の持つ深さと温かさを、改めて実感する機会をいただきました。今尚、そのお言葉は、自分の中で生き続けていまして、この度の講義を通して、改めて様々なことを振り返りながら、深める機会に繋がりました。

正常性バイアスを乗り越えるということは、簡単では無いということ、自分も日頃より感じております。外部に繋がることを可能にするには、それぞれ自分における揺るぎない力が少なからず必要である場合が多くあるということを実感する機会もございました。

日本の社会において可能である対応を適切に機能させるためにも、自分を含め、出逢うお一人お一人に必要な力を育む機会に繋ぐ一人となることを、さらに意識して活動を進めていきたいと思っております。

日頃より、社会福祉士・精神保健福祉士として活動する中では、権利擁護についても考える機会が多くございます。後見活動を含め、さらに適切な実践を検討していくために、自分に必要な学びを検討し、継続していきたいと思っております。

今後とも、ご指導くださいますようお願い致します。